

振り返り（後半）

グラフィックファシリテーター 出村 沙代

出村 後半のお二人のグラフィックレコーディングの報告をさせていただきます。ぜひみなさんもどんなところが印象的だったのかを思い出しながら聞いていただければと思います。内田先生は、スタートとして外国人といっても多様であり、職場以外の地域では日本人と接点が少ないという課題がある点をまず話されました。そして「外国人」という言葉の多義性、「日本人 vs. 外国人」などといった多様な切り口から「外国人とは何か」ということをうかがえたと感じます。お話で印象的だったのは「日常に起こることが災害時にも起きるとすれば、私たちは一体どうすればいいのか？」という問いかけを何度もしていただいたことです。また、在留資格のない方については当事者だけでなく、家族の経験や本人の周りにいる方の話についてもお聞きしました。人種差別についても古いスタイルのものから新しいスタイルのものもあり、レイシャルハラスメント、人種、皮膚の色、祖先、出身地にもとづくハラスメントもあるということでした。最後の大事なメッセージとして「多数派側が気づくことが大事ではないか」がありました。みなさんにはどんなメッセージが響きましたか。ぜひ対話の場でお聞きしたいと思います。

そして小山先生の話。外国人と日本人との間の5つの壁についてです。また、防災といっても防災に楽しさが必要なこと、

関心をもつ仕組みを具体的にお聞きできたと感じました。情報が日本語のみ、地震を知らない人、避難所がわからない方もたくさんおられる。関心がないわけではなく、外国人とのつながりの機会がないということを思いました。また非日常ではなく、日常の中にある防災対策、子どもから親に伝わる情報、どこから情報を伝えていくか、どう伝えるか、どう伝わるようにするかという問いかけをいただきました。互いのことを情報交換していく、対話や地域での日常のことを考え直したくなる時間だったなと思います。またみなさんも付箋紙にたくさん書いてくださっています。書き足していただき、眺めるだけでも、同じ話を聴いても感じ方が違うと多様性を感じられることがあると思いますので、ぜひ楽しみにしていただきたいと思います。